資　料

小田和正の社会福祉学私論

Kazumasa Oda's Private Theory of Social Welfare

北村典幸
Noriyuki KITAMURA
旭川大学保健福祉学部コミュニティ福祉学科

キーワード：愛，風，ソーシャルワーク

1．はじめに－本稿の目的

小田和正[1]と言えば，デビューから半世紀を迎え，古稀を超えてなお透き通った高音の魅力で老若男女を惹きつける，我が国を代表するシンガー・ソング・ライターであり，音楽プロデューサーとしても知られる，著名な団塊世代のシンボルのひとりと言える。

コンサートツアーで37万人を動員[2]と聞けば，中核市である旭川市と周辺8町[3]を丸ごと動員したようなもので，そのスケールがイメージできよう。

かつて山内亮史[4]らは，1980年代後半に『中島みゆきの社会学』を著した[5]。それに抗う訳ではないが，筆者はかねてから，小田が奏でる普遍的な「愛」について，あえて社会福祉の視点からアプローチしたいと考えていた。

なぜなら，社会福祉は人々の「幸せ」(well-being)を実現する過程（プロセス）であり，小田は，そのプロセスにメロディーを通して介入するシンガー・ソング・ソーシャルワーカー[6]として世に存在すると筆者は捉えているからである。本稿では，その根拠についての提示を試みている。

言うまでもなく，小田の音楽の主要テーマは「愛」と「幸福」である。しかし，それは個人愛としての私的恋愛や一個人のみの幸福追求に留まっていない。それは，ときに家族愛であり，友情であり，コミュニティケアへと発展する地域愛と幸福希求であると筆者は仮説している。

結論的に言えば，小田の楽曲は社会福祉の領域で言えば，すでに児童養護，高齢者の尊厳，障害者福祉，被災地支援などへとアプローチされているからこそ，広く大衆の共感と支持を得ているのであり普遍的と言える。

2．シンガー・ソング・ソーシャルワーカーとしての小田和正像

ソーシャルワーク専門職は，人間の福利（ウェルビーイング）の増進を目指して，社会の変革を進め，人間関係における問題解決を図り，人々のエンパワーメントと解放を促していく。

ソーシャルワークは，人間の行動と社会システムに関する理論を利用して，人々がその環境と相互に影響し合う接点に介入する。

人権と社会正義の原理はソーシャルワークの拠り所とする基盤である。

（ソーシャルワークの定義：2000年　国際ソーシャルワーカー連盟総会決定[7]）

小田は明らかに社会福祉援助職を生業とはしていないが，上記の定義に従えば，人権と社会正義の原理を基本に，人々の環境と相互に影響し合う接点に社会システムに関する理論に代えて，メロディーを通して介入する音楽家であり，彼の楽曲そのものが人々のエンパワメントと解放を促進しているというのが筆者の仮説である。以下に，その具体的根拠を述べる。

①ソーシャルワークの倫理から

『この道を』

それでも　けんめいに
生きて行くと　そう決めた

繰り返す　迷いも
争いも　悲しみも

すべてを　時に任せて
選んだ　道を行く

その道は　どこへと
つながって行くのか

未だ見ぬ　その場所は
どんな風が　吹くんだろう

誇りと　正義のために
戦う　自分がいるはず

晴れわたる　広い空に
明日が　確かに見える

どんなに　険しくても
この道を　信じて行く

守るべきもの　それはただひとつ
それを知った
（『この道を』2018．下線筆者）

この曲は，古希を迎えた小田による創作で 2018 年に発表された楽曲である。

そこで，さっそく第一の考察の根拠を以下に提示する。

まず，歌詞中に挿入されている「正義」から，「ソーシャルワーカーの倫理綱領」の前文[8]をこの曲は想起させる。つまり，争いや不幸のない，平和と社会正義に基づく人権が尊重される社会構築に向けての闘い（ソーシャルアクション含む）に実践すべくソーシャルワークの原則を再確認させる代表的な楽曲と言える。

歌詞中の「迷い」や「悲しみ」は，倫理的ジレンマと向き合うソーシャルワーカーの価値について想起させる。

②児童養護の視点から

『生まれ来る子供たちのために』

多くの過ちを僕もしたように
愛するこの国も　戻れない　もう戻れない

あの人が　そのたびに　許してきたように
僕はこの国の明日をまた想う

広い空よ　僕らは今どこにいる
頼るもの何もない　あの頃へ帰りたい

君よ愛する人を守りたまえ
大きく手をひろげて　子どもたちを抱きたまえ

ひとりまたひとり　友は集まるだろう
ひとりまたひとり　ひとりまたひとり

真白な帆を上げて　旅立つ船に乗り
力の続く限り　ふたりでも漕いで行く
その力を与えたまえ　勇気を与えたまえ
（『生まれ来る子供たちのために』1979．下線筆者）

小田が明確に児童養護をタイトルや歌詞に込めて創作した数少ない楽曲のひとつがこの曲である。

この曲がプロデュースされた 1979 年は，養護学校における就学義務及び養護学校の設置義務に関する施行期日を定める政令の公布（1973 年）により，「すべて国民は，法律の定めるところにより，その能力に応じて，ひとしく教育を受ける権利を有する」と規定した憲法第 26 条が，戦後 34 年を経てようやくすべての障害児に対応することとなり，いわゆる養護学校の義務化が始まった年である。つまり，命の尊厳を教育権を通して実質化する政策が具現化した時期であり，この曲の歌詞に込められた「多くの過ち」とは，つまり我が国の戦後教育史における政策的な過ちを総括し，かつ障害児教育の新たな地平を展望する弁証法的な価値を多くのソーシャルワーカーに示した楽曲と言える。

その後，この曲は 1999 年よりUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）の難民支援曲に採用されたり，世界エイズデーのチャリティソングとしてリリースされるなど，国際的にも幅広く支持される名曲となった[9]。

③高齢者の尊厳の視点から

『老人のつぶやき』

大空へ　海へ　故郷へ
私はもうすぐ　帰ってゆく
大空へ　海へ　故郷へ
私はもうすぐ　帰ってゆく

いつまでも　空を見上げて
老人は　あの頃を思い出すのだろう
私の好きだった　あの人も今では
もう死んでしまったかしら

大空へ　海へ　故郷へ
私はもうすぐ　帰ってゆく

私の短い人生は
私の生き方で　生きたから
もう一度若い頃に
戻りたいと思うこともない

ただ　あの人に私の愛が伝えられなかった
それが心残りです

私の好きだった
あの人も今では
もう死んでしまったかしら
（『老人のつぶやき』1975.）

この曲は1970年代に入り，我が国の高齢化率が7%を超過する，いわゆる高齢化社会を迎えた時代を反映し，当時20代の小田が創作した，きわめてシリアスな楽曲のひとつと言える。

当時，「愛するとは決して後悔しないこと」という台詞で話題となった映画『ある愛の詩』（1970年・アメリカ）がある。また，倉本聰（原作・脚本）による東芝日曜劇場『幻の町』（1976）では，笠智衆・田中絹代演じる老夫婦のキスシーンが話題を呼んだ。

この曲がなぜに高齢者の尊厳に強く迫って来る楽曲となり得ているのかといえば，歌詞中の「私」も，そして好きだった「あの人」も「帰ってゆく」，即ち「死」を直接的なテーマとしつつ，いかなる状況下においても，高齢者のQOLをSexualityまで可能な限り掘り下げて捉えるべきソーシャルワークの視点を提起していると筆者は捉える。

また，この曲は当時（1975），NHKの音楽番組「みんなのうた」より創作依頼を受けながら，不採用とされた経緯がある[10]。それほど愛と死の接点に高齢者の尊厳をメロディーで介入して表現する小田の感性が，鋭く人々を惹きつける楽曲と言えるであろう。

④アウトリーチ・依存症支援・司法福祉の視点から

『君住む街へ』

そんなに自分を責めないで
過去はいつでも　鮮やかなもの
死にたいくらい辛くても
都会の闇へ消えそうな時でも
激しくうねる海のように
やがて君は乗り越えてゆくはず

その手で望みを捨てないで
すべてのことが終わるまで
君住む街まで飛んでゆくよ
ひとりと思わないで　いつでも

君の弱さを恥じないで
みんな何度もつまづいている
今の君も　あの頃に負けないくらい
僕は好きだから
歌い続ける　くり返し
君がまたその顔を上げるまで

（中略）

その手で心を閉じないで
その命が尽きるまで
かすかな望みが　まだその手に
温かく残っているなら
（以下省略）
（『君住む街へ』1988.　下線筆者）

まさに，依存症の当事者だけでなく，その家族が経験する自責や自信喪失，そして自己回復過程に対するメッセージが歌詞の随所に明確に著された楽曲と言える。小田自身はおそらく，アウトリーチや依存症支援の相談援助アプローチなど，まったく意識はしていないであろうし，この作品自体，創作された1988年は，アルコール健康障害対策基本法（2014年施行），ギャンブル等依存症対策基本法（2018年施行）など，依存症対策関連法の整備から25～30年も前であるから，創作背景としても依存症が顕著に社会問題化（クローズアップ）されていたわけではない。

しかし，創作から四半世紀を経た今日でも，なおこの曲は生命力を発揮し，引きこもりや発達障害の当事者などからも，SNSで共感のメッセージが寄せられている状況に触れると，時を越えて小田が「生きづらさ」を抱える幅広い層に支持される普遍的価値を伺い知ることができる。

2016年のツアータイトルでもあるこの曲は，関連して司法福祉の視点でも，犯罪当事者らの社会復帰支援に適合する歌詞が多くの共感と支持を得られそうである。2021年に公開された映画『すばらしき世界』（原作：佐木隆三『身分帳』）での，主演の役所広司演じる累犯出所者と彼を支える人々との関係性は，まさに，この「ひとりと思わないで」というフレーズがよく似合うところであろう。

⑤災害支援の視点から

『その日が来るまで』

午後から突然　風が変わった
子どもたちの声が　空に響く

やわらかな日射しは　君を包んで
その腕に抱えきれない　春が今届いた

君が好き　君が好き
それを伝えたかったんだ
遠くからずっと　君を思ってた

いつかその日はきっと来るから
時はやさしく流れるから

雪が溶けてゆくみたいに　今はそのまま
ゆっくりゆっくり　元気になって

君が好き　君が好き
それを伝えたかったんだ
遠くからずっと　君を思ってた

君の好きなふるさとの街に
またあの日々が戻ってきますように
嬉しいことが　楽しいことが
たくさん待っているといいね
ボクには歌うことしか　できないけど

君が好き　君が好き
それを伝えたかったんだ
遠くからずっと　君を思ってる
（『その日が来るまで』2013.）

『その日が来るまで』は 2013 年 5 月に宮城・岩手・福島の東日本大震災の被災 3 県を中心に開催されたコンサートのタイトル曲でもある。

小田自身も，津波到達地点に桜を植樹し，震災の記憶を残そうという岩手県陸前高田市の「桜ライン 311」をはじめ，東日本大震災の被災地で桜の木を植樹する活動と，これを音楽を通してバックアップしようという「東北さくらライブプロジェクト」の活動に積極的に参加している。

タイトルナンバーとなったこの曲は，実質的に本プロジェクトのイメージソングとなっており，小田自身もコンサートや取材等で語るように，東日本大震災の復興を支援する楽曲である。

⑥リハビリテーション・リカバリーの視点から

『風を待って』

ずっと待っていた　風がいま吹いた
まるで優しい声で　話しかけるように吹いた
It’s going to be all right　きっと大丈夫
想うようにはいかなくても
午後の光は　風に揺れて
あなたに笑顔　運んできた
（以下省略）
（『風を待って』2020.）

狭義であるか広義に捉えるかはさておき，保健福祉分野で言うところのリハビリテーションやリカバリーを想起させる曲である。同様に『風と君を待つだけ』（1992）もまた然り，当事者を主体とするストレングスモデルを理解し，エンパワメントアプローチによる援助方法を展開するソーシャルワークに相応しい楽曲であろう。

1998 年 7 月，小田は東北自動車道での自損事故による重傷入院を機に，人生と，そして人としての「いのち」の尊厳に対する愛おしさを深めてゆく。明治安田生命のCMで『言葉にできない』を提供したのは，まさにその事故の翌 1999 年からであり，その後も『たしかなこと』（2004 年～），『愛になる』（2014 年～），上記の『風を待って』（2020 ～）と 20 余年にわたり，同社のCMに楽曲を提供している[11]。つまり，小田の場合，経験に基づく当事者性と主張が明確であり，それが彼の音楽活動全般に貫かれていると言って良いであろう。

わが国の社会保障制度は，周知のように基本的に社会保険（医療・年金・介護・雇用・労災等）・社会福祉（児童・高齢・障害等）・公的扶助（生活保護）・公衆衛生によって成り立っている。

しかし，その制度基盤は脆弱であり，社会保障給付費の対GDP比でみた国際比較では，OECD（経済協力開発機構）における日本の公的負担は決して高水準にあるとは言えない[12]。こうしたなかで，生命保険は公的社会保障とは異なるルートで，国民に対する社会的相互給付を補足する手段として現実的に存在しているのである。

但し，生命保険は社会保険と異なり，基本的にはソーシャルワークの対象とは異なる。

それでも，かつて無認可の保育所や共同作業所の設置運動が，戦後間もなく始まり 1960 年代から 1980 年代にかけて発展した背景として，脆弱な公的福祉制度の補完的な役割を担ってきたという側面をもつように，生命保険もまた，公的保険制度を補完する機能をもつと位置づけるなら，上述したような小田の音楽活動も，地道に地域でのわが国の国民の安心と安全を構築する活動を側面的に援助していると言える。コミュニティワークサポートの役割である。

お　わ　り　に

以上のように，小田が創作した数ある楽曲から，社会福祉の視点から分析可能な数曲を抽出し，彼をシンガー・ソング・ソーシャルワーカーとして仮説し考察を試みた。

冒頭に述べたように，「愛」と「幸福」が小田の音楽の主要テーマであるが，社会福祉の視点からアプローチすることで，人権と社会正義の原理を軸に，人々と環境が相互に影響し合う接点にメロディーを通して介入するもうひとつの音楽家としての側面に接近することができたであろうか。

なお，小田自身が幾度か語っているように，彼の音楽性のうち，こと歌詞についていえば「風」というフレーズを多用している[13]。風の音・温度・匂いなど，感覚過敏とも言えるその引用頻度は，発達障害の当事者性を想起させるほどの「こだわり」にさえ思えるし，そこが多くの障害のある者たちが小田に寄せる共感と支持の根拠とたり得るところでもある。

まさに，このピアサポーター的当事者性こそが，人々のエンパワーメントと解放をすすめる，シンガー・ソング・ソーシャルワーカーとしての小田和正の最大の魅力かも知れない。

『wonderful life』

風はまだ少しだけ　冷たいけれど
空はどこまでも　晴れ渡っている

(中略)

きっとどんなこともうまく行くはず
新しい物語が始まろうとしている

この道は　はるか遠く続いている
明日のずっとその先へ走ってゆく
(以下省略)
(「wonderful life」2016.)

＜参考・引用・注釈＞

1) 1947 年 9 月 20 日生まれ。元オフコースのリーダー。横浜市金沢区出身で京急金沢文庫駅最寄の小田薬局の次男として育ち，聖光学院高から東北大学工学部建築学科を経て早稲田大学大学院理工学研究科建設工学専攻修士課程修了。現在，㈱ファー・イースト・クラブ代表取締役社長。

2) 2014 年の「KAZUMASA ODA TOUR 2014 本日 小田日和」，2016 年の「KAZUMASA ODA TOUR 2016 君住む街へ」は，ともに観客動員数約 37 万人と公表されている。なお，2018 年の「KAZUMASA ODA TOUR 2018 ENCORE!!」は，追加公演を合わせ全国 64 公演，約 55 万人という規模であった。https://www.meijiyasuda.co.jp/pro-file/news/release／2021.2.6 閲覧.

3) 1 市 8 町（旭川市，鷹栖町，東神楽町，当麻町，比布町，愛別町，上川町，東川町，美瑛町）の上川中部定住自立圏域の総人口は 385,731 人（総務省自治行政局住民基本台帳に基づく人口，人口動態及び世帯数に関する調査・2020 年 1 月 1 日現在）。

4) 現・学校法人旭川大学理事長.

5) 山内亮史：望郷の眼差しと儀への情熱　中島みゆきの社会学，青弓社，7-66，1988.

6) 筆者による造語である。小田は対人援助専門職に従事してはいないが，ソーシャルワーク専門職のグローバル定義から彼の音楽性を評価し適用した。

7) 本定義は，2014 年の同連盟総会で「ソーシャルワーク専門職のグローバル定義」として改訂された。

8) われわれソーシャルワーカーは，すべての人が人間としての尊厳を有し，価値ある存在であり，平等であることを深く認識する。われわれは平和を擁護し，社会正義，人権，集団的責任，多様性尊重および全人的存在の原理に則り，人々がつながりを実感できる社会への変革と社会的包摂の実現をめざす専門職であり，多様な人々や組織と協働することを言明する（日本ソーシャルワーカー連盟「ソーシャルワーカーの倫理綱領」前文より.）

9) UNHCR協会 https://www.japanforunhcr.org/，厚生労働省 https://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/eizu/index.html，2021.2.13 閲覧.

10) 直近ではNHK・Eテレ「そして『みんなのうたは生まれた』」2022 年 2 月 5 日放送でも，公の場でこのことを小田自身が語っている.

11) その他にも㈱SUBARU（スバル）や名古屋鉄道㈱などの企業CMをはじめ，映画『64 －ロクヨン』(2016)，ドラマ『遺留捜査』(2013 ～)，NHKテレビ『みんなのうた』の主題歌として楽曲を提供している。

12) 厚生労働省政策統括官付社会保障担当参事官室は，OECD“Social Expenditure Database”等に基づき，我が国の社会保障給付の部門別の国際的な比較（対GDP比）として「年金－米英を上回るが仏をやや下回る規模，医療－米国や欧州諸国を概ね下回る規模，その他の給付－米国を上回るが，欧州諸国をかなり下回る規模」と評している。（第 3 回上手な医療のかかり方を広めるための懇談会・資料 3　3 頁：平成 30 年 11 月 12 日）

13) 小田和正：時は待ってくれない，ＰＨＰ研究所，10-11，2018.